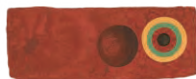


装飾古墳

ガイドブック

九州の装飾古墳

柳沢一男
〔著〕



はじめに

石室を埋めつくす赤・黒・緑・黄の三角文、騎馬や船の図文、天空の星のようにちりばめられた珠文、得体の知れない怪獣のような図文、謎の直弧文や双脚輪状文、蕨手文……。装飾古墳の不思議な図文は人の目を惹きつけ、古代のロマンをかき立てます。それらの写真を大きく掲載した本もたくさん刊行されています。

しかし、古墳の装飾がどの地域で、どんな図文からはじまり、どのように変化・波及し、終息していったのか、そもそも何のために装飾をしたのか、その歴史は案外知られていないように思います。

本書は、考古学研究でわかってきた装飾古墳の歴史をわかりやすく解説しようとするものです。目を引く図文だけでなく、それが描かれた古墳の写真や石室の図版、さらに分布図などをたくさん収録しました。

装飾古墳に表現されたさまざまな図文は、たんなる墓室内の飾りではありません。古墳時代の人びとの死者への想いが表現されたものです。九州の数多くの装飾古墳をとおして、その想いに触れる旅に出てみませんか。

はじめに……3

ようこそ装飾古墳の世界へ

第1期の装飾古墳

- 01 装飾古墳とは……10
装飾古墳の分布
- 02 どこに・どのくらいあるのか……14
装飾のある古墳の種類
- 03 変遷を三つの時期に分けてみる……18
装飾古墳の出現と展開
- 04 最初に出現した装飾古墳……22
石棺に刻まれた直弧文・円文
- 05 直弧文・円文の意味するもの……26
直弧文・円文のルーツ
- 06 家形表現の思いと工人の交流……30
遠く離れた石棺・図文の類似
- 07 装飾古墳の出現……34
小鼠蔵古墳群
大鼠蔵古墳群
- 08 直弧文・具象文の出現……38
長砂連古墳
大鼠蔵東麓1号墳・広浦古墳
- 09 同心円文のはじまり……42
ヤンボシ塚古墳
小田良古墳
- 10 色の塗り分けがはじまる……46
井寺古墳
鴨籠古墳・千金甲1号墳
- 11 石屋形の登場とその装飾……50
国越古墳
塚坊主古墳

- 12 装飾古墳の広がりとその背景……………54
石人山古墳
千足古墳
- 13 横口式家形石棺の連鎖……………58
浦山古墳
西隈古墳・石之室古墳
- 14 地下式横穴墓の家屋表現……………62
立切54号地下式横穴墓
本庄14号地下式横穴墓
- ## 第2期の装飾古墳
- 15 六世紀前葉の大転換……………66
王塚古墳 その1
- 16 王塚古墳―玄室前面壁画の語り……………70
王塚古墳 その2 玄室前面壁画
馬を描いた彩色壁画
- 25 謎の天井画……………106
天井画の連鎖
- 26 朝鮮半島と九州のつながり……………110
岩戸山古墳
朝鮮半島南部の前方後円墳
- 27 叙事的壁画の出現①―田代太田古墳……………114
田代太田古墳
- 28 叙事的壁画の出現②―五郎山古墳……………118
五郎山古墳
- 29 高句麗系図文の登場①―竹原古墳……………122
竹原古墳
- 30 高句麗系図文の登場②―珍敷塚古墳……………126
珍敷塚古墳
鳥船塚古墳
- 31 横穴墓の図文装飾……………130
石貫ナギノ8号横穴墓
大村15b横穴墓
- 17 王塚古墳―玄室奥壁と石屋形の壁画……………74
王塚古墳 その3 玄室奥壁と石屋形の壁画
- 18 王塚古墳―武器・武具の図文……………78
王塚古墳 その4 武器・武具の図文
- 19 王塚古墳―天文図の謎……………82
王塚古墳 その5 天文図
- 20 日岡古墳―石室構造と壁画……………86
日岡古墳 その1 石室に広がる壁画
- 21 日岡古墳―多様な壁画……………90
日岡古墳 その2 多様な図版
同心円文・連続三角文・具象文
- 22 釜尾古墳―石室と壁画……………94
釜尾古墳 石屋形の双脚輪状文
- 23 謎の双脚輪状文……………98
双脚輪状文の連鎖
- 24 双脚輪状文のルーツ……………102
双脚輪状文埴輪
岩橋型横穴式石室
- ## 第3期の装飾古墳
- 32 鯨・イルカ鯨を描いた線刻画……………134
第2期につづく彩色図文
鯨・イルカ鯨を描いた線刻画
- 33 鬼面文を描いた線刻画……………138
蓮ヶ池53号横穴墓
鬼面文とその源流
- 34 樹木・木葉・鳥の線刻画……………142
伊美鬼塚古墳
穴ヶ葉山1号墳
- 35 描かれた船と馬……………146
東殿塚古墳
弁慶ヶ穴古墳・高岩18号横穴墓
まとめに代えて……………150



**装飾古墳
ガイドブック**

九州の装飾古墳

古代の人びとは近い人の死に接すると、復活と再生を願ってさまざまな儀式や儀式をとりおこなった。それにもかかわらず死が現実として受け入れられると、それぞれの地域の死生観にもとづいて造形された墓地・墓室に死者を埋葬した。洋の東西を問わず、遺骸をおさめる棺や墓室内に各種の図文を彫刻や彩色で描くことがあった。

東アジアでは中国の漢代（紀元前三世紀）以降、あるいは四世紀以降の朝鮮半島の高句麗の有力者の墳墓の墓室内にさまざまな壁画が描かれた。なかでも、中国漢代の画像石墓や墓室にもちこまれた帛画^{はくが}の主たる画題は、墓主の靈魂の昇仙と仙界での安寧な生活祈願を基調とするほか、生前のさまざまな日常生活や儀礼の場面、さらに天文や辟邪^{へきじや}（魔よけ）などが主要なモチーフであった[†]。

日本における古墳墓への本格的な図文装飾は四世紀中葉ごろにはじまる。一口に装飾古墳といっても、横穴式石室や横穴墓^{よこあなぼ}あるいは地下式横穴墓の壁面に顔料で図文を表現するほかに、線刻や浮彫^{うきぼり}などの彫刻手法による図文表現などじつに多様だ。現在、日本で確認されている装飾古墳は七五〇基ほど。毎年すすめられている発掘調査によって徐々にその数は増加している。一方、列島内の分布状況^{（図1）}をみると、意外なほどの偏りに驚く。古墳時代の政治的中枢域であった近畿地方では数が少なく、列島南西端の九州に全体の五割あまりが集中する。その要因は、地域による死生観や埋葬習俗のちがいのなか、今後の検討課題だ。

一般的に装飾古墳というと、鮮やかな赤・白・黄・緑・黒・灰色などの顔料で描かれた壁画をイメージするが、その数は約八〇基と意外に少ない。ほかは線刻や浮彫などの彫刻技法で図文が表現されたものと、図文を顔料で塗り分けるものなどである。壁画の文様は、円形や三角形などの幾何学的図文や直弧文^{ちまげもん}や双脚輪状文^{りしじょうもん}などの抽象的な図文、各種の武器や武具、船・馬・木葉・鳥などの具象的な図文が中心となる。死者の靈魂がおもむくと思念されたであろう他界のすがたや、被葬者の生前の日常生活の場面を描くことは皆無とはいえないがきわめて少ない。これは古代中国や高句麗の墳墓壁画と大きく異なる点といえるだろう。

日本の装飾古墳のなかには、高句麗の古墳壁画と類似する図文が描かれた例（福岡県王塚古墳^{おうづか}・竹原古墳^{たけはら}・珍敷塚古墳^{めずしづか}）や、中国唐王朝の壁画の影響下に出現した例（奈良県高松塚古墳^{たかまつか}・キトラ古墳）もある。しかし、高句麗や中国唐王朝の壁画は日本における装飾古墳の出現よりも新しく、日本の装飾古墳の始原に直接的な影響を与えたものではない。

本書では、九州における装飾古墳の概要を述べたうえで、九州に先行して築造された西日本の装飾古墳をとり上げ、装飾図文の意味と連鎖を考えたい。それを受けて、九州での装飾古墳の出現とその後の展開過程をおおよその年代順にたどりつつ、注目される装飾古墳をとり上げながら、古墳時代の人びとの死生観・他界観について考えてみたい。

*1 帛画 中国の春秋戦国時代から漢代にかけて、絹布（帛）に描かれた絵をいう。なかでも前漢の馬王堆一号・三号墓の帛画は著明だ。

† 曾布川寛 一九八一「崑崙山への昇仙」中公新書／伊藤清司 一九九八「死者の棲む樂園―古代中国の死生観―」角川選書／林巳奈夫 一九九二「石に刻まれた世界―画像石の語る古代中国の生活と思想―」東方書店

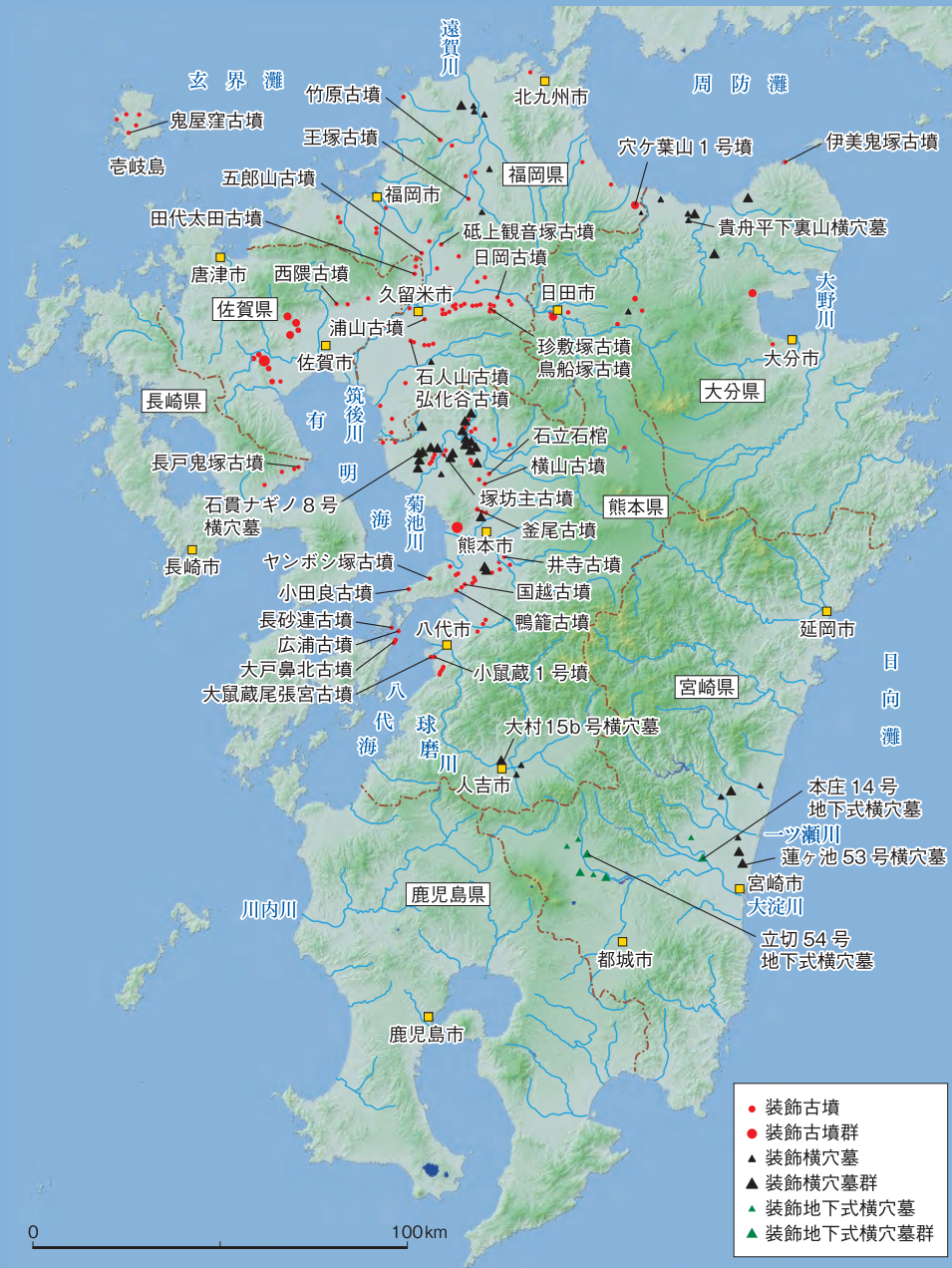


図2 ●九州の装飾古墳の分布

九州内に分布する装飾古墳（横穴墓・地下式横穴墓を含む）の位置を示し、本書でとり上げたものは名称を掲載した。福岡県・熊本県の装飾古墳の詳細な位置は、36頁・68頁の分布図を参照されたい。

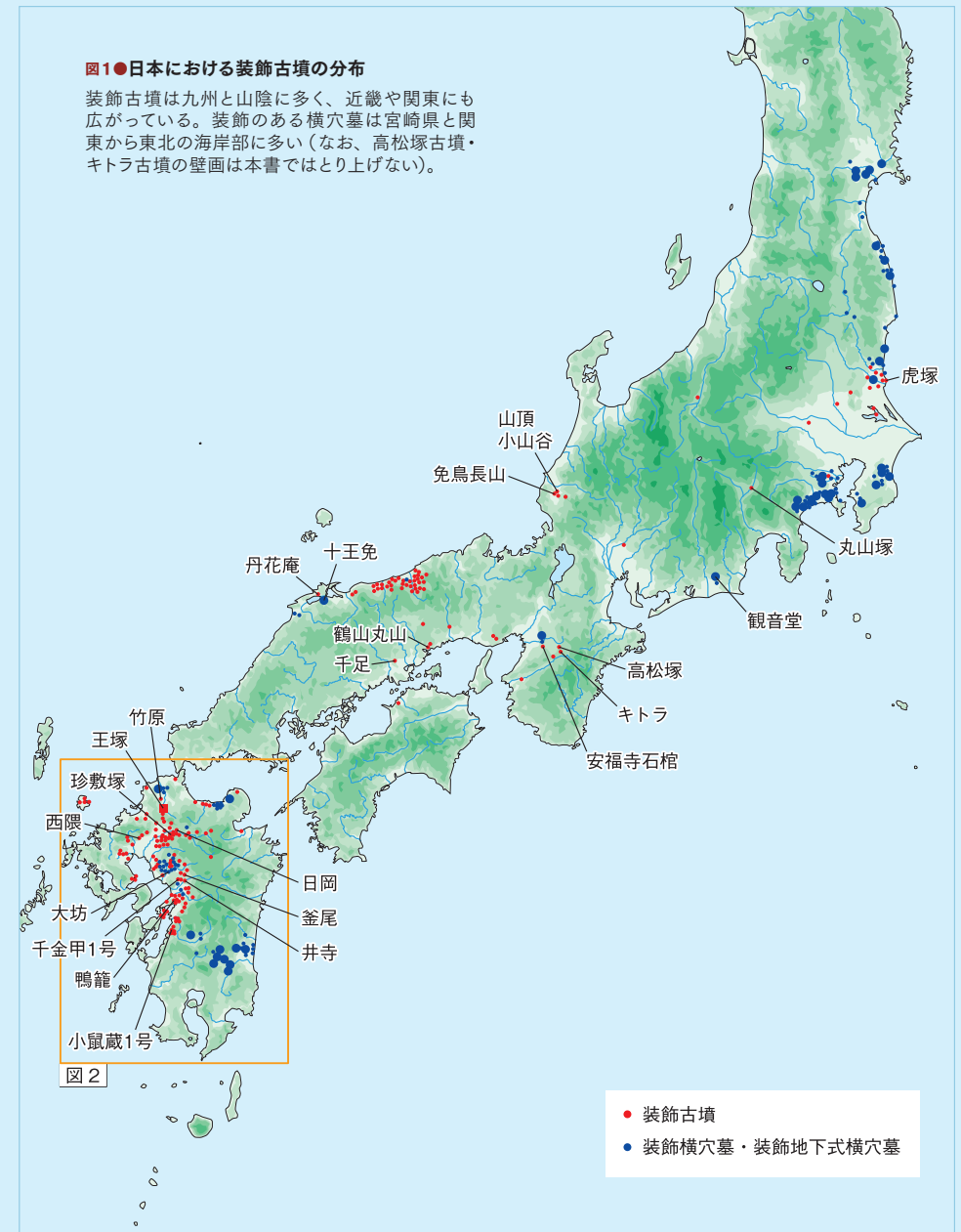


図1 ●日本における装飾古墳の分布

装飾古墳は九州と山陰に多く、近畿や関東にも広がっている。装飾のある横穴墓は宮崎県と関東から東北の海岸部に多い（なお、高松塚古墳・キトラ古墳の壁画は本書ではとり上げない）。

図2

どこに・どのくらいあるのか

日本列島南西端の九州には、これまで確認された古墳時代の墳墓の数は三万五〇〇基あまりあり、そのうち墳丘をとまなう高塚古墳が約一万七〇〇〇墓、基本的に墳丘を構築しない横穴墓が約一万三〇〇〇基と地下式横穴墓が約一五〇〇基（数値は概数）ある。そのうち棺や墓室の内部を彫刻や彩色で各種の図文を施した装飾古墳は約三五一基が知られている（表1）。古墳総数のうち、装飾古墳が占める割合は約一・一パーセントにすぎない。

墳丘をとまなう高塚古墳のうち装飾古墳は一七八基、その内訳は前方後円墳が二一基、直径二五メートル以上の大形円墳は三〇基あまり、他の一二七基は中小の円墳である。これを埋葬施設ごとに分けると、刳抜き式石棺二基、組合せ式石棺一九基（図1）、横穴式石室（図2）一五七基となる。さらに、横穴式石室の場合、装飾図文の施された部位で区分すると、石障一六基、石屋形一〇基（図3）、壁面一三一基である。

横穴墓はおもに軟質の岩石を基盤とする丘陵裾の斜面や崖面を掘削し、遺骸を安置する玄室を設けた埋葬施設である（図4）。この墓制は地下式横穴墓（図5）を母胎に、五世紀後半末葉に福岡県北東部から大分県北部で成立し、その後、熊本・宮崎県域に分布域が拡大した。さらに六世紀後半以降には、九州外の列島各地に展開している。

これまで九州で図文装飾が確認された横穴墓は一五二基である。装飾は玄室の

壁面を基本とするが、大分・熊本県域の横穴墓では羨道の先端に削り出された飾縁や羨門外側の崖面に図文を彫刻することもある。

地下式横穴墓は、地表から二メートル程度掘りくぼめた竪坑の底面から横方向に玄室を削り抜いた横穴系埋葬施設である。九州北部に出現した横穴式石室の影響下に五世紀初頭前後に宮崎県の宮崎平野やえびの盆地で成立した後、一ツ瀬川以南の宮崎県南部から鹿児島県大隅地方にのみ分布域を広げた地域性の顕著な墓制である。横穴墓と同様に墳丘をとまなうこともある。図文装飾が確認された地下式横穴墓は二一基、玄室の天井や壁面に線刻・浮彫や顔料を用いたの家形表現が多いが、星宿を表現した特異なものもある。なお、玄室の天井部の大棟の浮彫表現を装飾に含めることもあるが、本書ではこれらを除いている。

装飾古墳の分布は古墳分布の濃淡とも関連するが、特定地域への集中が顕著である。たとえば、高塚古墳は福岡県南部の筑後川中流域南岸域に、横穴墓は熊本県北部の菊池平野や中部の熊本平野さらに南部の球磨川を遡った人吉盆地などである。

石棺や石障などへの彫刻系の図文装飾には高度な加工技術をもった石工集団の関与が必要だし、顔料を使用した精緻な図文を描くには専門的な絵師集団の関与が必要である。また、図文の表現方法や図文の配列、また顔料の共通性などからすると、装飾に関わる専門集団のネットワークや、そうした集団を束ねる首長層間の交流などが想定される。

*1 石障 横穴式石室の玄室壁面の下部に扁平に加工した石材をめぐらせたもの。

*2 石屋形 横穴式石室の玄室奥壁にそって設置された遺骸安置施設。箱形石棺状の構造で、石室入口側に開口している。

*3 羨道 横穴式石室で玄室につうじる道。羨道の入口は羨門という。

*4 星宿 むかし中国で定めた星座。

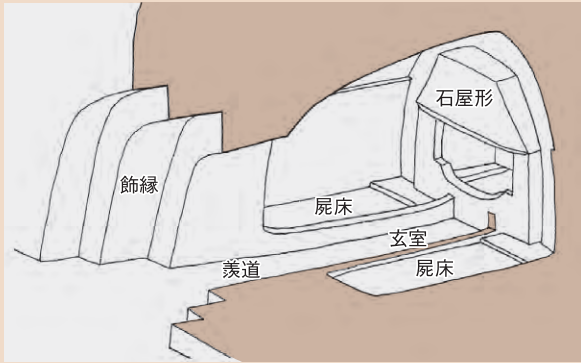


図4●横穴墓の模式図
丘陵の斜面や崖面を横に掘削してつくられる。横穴墓のなかにも横穴式石室の石室形を模倣したものがある。



図3●石障と石室形
横穴式石室のなかでも石障(写真上)と石室形(写真下)には特異な装飾がほどこされた。
上:千足古墳(岡山県岡山市)
下:大坊古墳(熊本県玉名市)

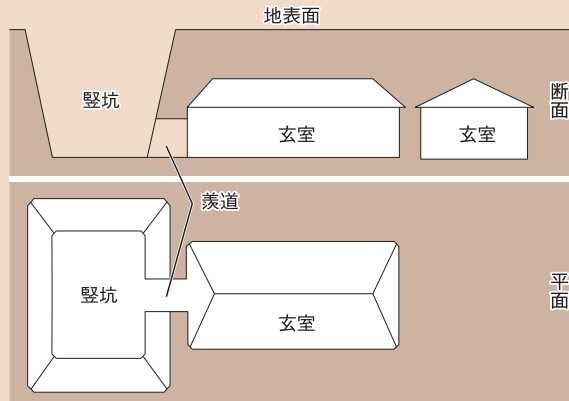


図5●地下式横穴墓の模式図
宮崎県南部から鹿児島県東部にあらわれた地域性の強いもので、宮崎県えびの市の島内地下式横穴墓群、西都原市の西都原地下式横穴墓群が有名。

表1●九州の県別装飾古墳数
九州の装飾古墳の数は約351基で、古墳総数約31,500基の1.1%と意外と少ない。

県名	総数	刳抜き式石棺		組合せ式石棺		横穴式石室						横穴墓			地下式横穴墓			
		彫	色 +	彫	色 +	彫	色 +	色	彫 +	色	彫 +	色	刻 +	色	彫 +	色	彫 +	
福岡	68	1		2		1	1	2	41	4	1	1	13	1				
佐賀	30			2					3	25								
長崎	14									14								
大分	21								8	2			11					
熊本	191		1	14	1	13	2	7	10	12	11	28	44	48				
宮崎	27												5	1	5	12	4	
合計	351	2		19		16		10	131			152						21

注) 彫は彫刻手法の略、色は彩色の略、+は彫刻に彩色をとまなうもの。横口式家形石棺は組合せ式石棺に含める。
埋蔵文化財研究会 2002『装飾古墳の展開—彩色系装飾古墳を中心に—資料集』第51回埋蔵文化財研究会、
熊本県立装飾古墳館 2018「全国の装飾古墳一覧(中間報告)」『熊本県立装飾古墳館研究紀要』第14集を参照。

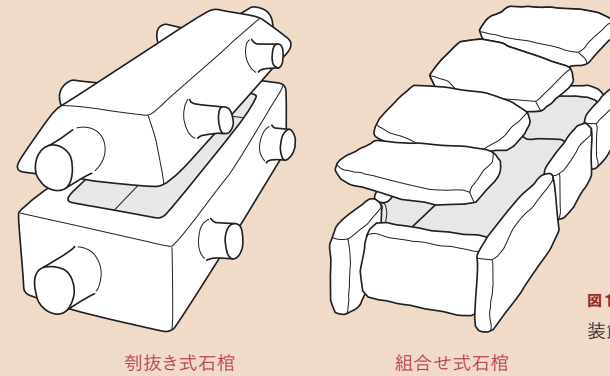


図1●刳抜き式石棺と組合せ式石棺
装飾は石棺自体に線刻・浮彫される。

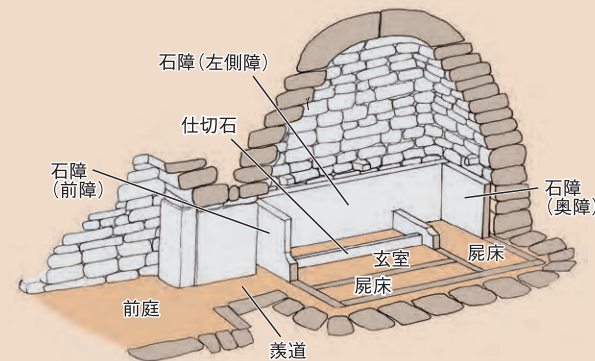


図2●横穴式石室(石障系)の模式図
横穴式石室への装飾は華麗・多彩に展開する。

変遷を三つの時期に分けてみる

現状で九州最古の装飾古墳は、熊本県南部の八代市小鼠蔵一号墳（直径十数メートルの円墳）である。割石積みせきせきの横穴式石室の石障内石棺せきしょうの小口壁に直径七センチの円文一個を陰刻したシンプルな装飾だ（07項の図4参照）。築造年代の手がかりは特殊な石室構造で、現在の研究水準からいえば五世紀初頭ごろとみられる。

その後、二世紀にわたって九州各地で装飾古墳がつくられた。その変遷を、装飾がほどこされた埋葬施設と装飾図文の種類や表現方法を基準に大きく三期に分しておきたい（表1）。

第1期は、熊本県南部での装飾古墳のはじまりから、図文装飾部位が一気に拡大する六世紀前葉までのあいだである。この間、装飾古墳が築造された地域は、熊本県域と福岡・佐賀県の一部、地下式横穴墓よこあなばが営まれた宮崎県域にすぎない。

熊本県域の古墳は、階層性と地域性を反映して多様な埋葬施設が築造されている。上位層の古墳は堅穴式石槨せつかくにおさめられた刳抜き式石棺や横穴式石室、中位層が横穴式石室、下位層では小形の組合せ式箱形石棺を用いることが多い。装飾図文をほどこす埋葬施設は横穴式石室が主流だが、中小の箱形石棺やまれに刳抜き式石棺もある。ただし五世紀前葉から後葉にかけて、佐賀県と福岡県南部の妻入り式横口式家形石棺を埋葬施設とした首長墓にかぎって図文装飾をほどこす特異な広域拡散もある。五世紀末葉以後、石棺への装飾は急速に衰退し、装飾古墳はほぼ横穴式石室に限定され、石障にかわって石屋形いしやがたが主となる。

第2期は、六世紀前葉から顔料による装飾が衰退する六世紀末葉までのあいだである。石屋形への図文装飾が限定的となり、横穴式石室では装飾図文の描かれる部位が石室壁面に拡大し、あわせて物語風の壁画も登場する。装飾古墳の分布域は福岡・大分・佐賀・長崎県の九州中・北部一円に拡大するが、地域的な濃淡がみられる。また、横穴墓への図文装飾の最盛期で、とくに熊本県域では横穴式石室を上まわる数の装飾横穴墓が築造されている。

図文装飾の壁面拡大の契機となった古墳は、六世紀前葉に築造された福岡県の王塚むら・日岡古墳ひのおか、熊本県の釜尾古墳かまおなどである。なかでも王塚古墳と日岡古墳の壁画は、横穴式石室の壁全面におよぶ特異な例である。また双脚輪状文そふやくりんじょうもんとよぶ特異な図文や天井石下面への壁画手法などを共有するなどの特異な連鎖が認められる。

第3期は、六世紀末葉ごろから数を減じた彩色壁画にかわって、線刻壁画が盛行する段階である。線刻画を代表する「自由画風線刻画」¹⁾は、六世紀後葉ごろからみられる。

以上が、九州における装飾古墳の出現から衰退までのおおよその推移だが、列島全体でみると、九州に先行して装飾古墳が営まれている。数少ないが、この一群を広瀬和雄氏ひろせわおにならって先1期さき1とよぶことにする。九州に出現した装飾古墳の源流を考えるうえで欠くことができない資料であり、次項でその概略と図文装飾の思惟を考えることにしたい。

¹⁾ 森貞次郎「一九九三」自由画風線刻壁画人物像にみる六朝文化類型―装飾古墳雑考―、「考古学雑誌」七九―一

²⁾ 広瀬和雄「二〇〇九」装飾古墳の変遷と意義―靈魂觀の成立をめぐって―、「国立歴史民俗博物館研究報告」一五二

3期	2期
6世紀末葉～7世紀中葉	6世紀前葉～6世紀末葉
横穴式石室・横穴墓の壁面／彩色画の衰退、それに代わって線刻画が主流	横穴式石室の壁面・横穴墓壁面と羨道外面（熊本・大分県限定）
新たな具象文（樹木・木葉・鳥・魚・鯨・イルカ・鬼面など）と船の線刻手法の多用	新たな抽象文（蕨手文など）や具象文（双脚輪状文・船・馬）や多様な人物像、高句麗系図文
鹿児島を除く九州各県	鹿児島を除く九州各県

1期	先1期	時期 場所と特徴 種類 図文の 地域
4世紀末・5世紀初頭～6世紀前葉	4世紀中ごろ～4世紀末	
刳抜き式石棺・組合せ式石棺の内外面、横穴式石室の石障・地下式横穴墓の天井面／線刻に加えて彩色画の登場	刳抜き式石棺の外表面	
直弧文・円文・三角文・対角線文などの抽象文、甲冑・盾・鞆などの具象文	直弧文風図文・円文・家屋表現の線刻・浮彫	
熊本・宮崎・福岡・佐賀	九州外の大阪・福井・岡山	地域

表1●装飾古墳の出現と展開
時期によって装飾を施す部分、図文の種類、地域が変遷する。

3期



図4●長戸鬼塚古墳（長崎県諫早市）の鯨魚線刻画
1艘の船と頭部が長く尖り細長い胴部に尻尾がT字形の鯨が刻まれている。

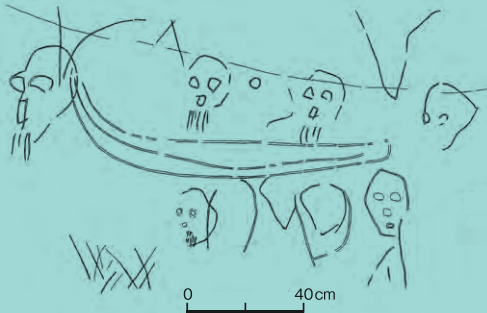


図5●蓮ヶ池53号横穴墓（宮崎市）の船と人物顔線刻画
船の上下・左右に、口を大きく開け顎髭を表現した多くの人物像が刻まれている。

2期



図3●王塚古墳の横穴式石室（レプリカ）
壁から石屋形など全面に装飾がほどこされている。

1期



図2●鴨籠古墳（熊本県宇城市）の石棺（レプリカ）
刳抜き式家形石棺で、棺蓋に直弧文が刻まれている。



図1●小田良古墳（熊本県宇城市）の石障
円文と盾、鞆の図文が刻まれている。